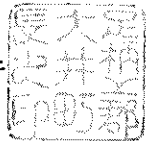


大都第 ㍻㍺㍻ 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

神奈川県足柄上郡
大井町長 間 宮 恒 行



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号により依頼のありました標記の件について、別紙により回答します。

事務担当は、都市整備課石田

電話0465（83）1311

直通0465（85）5014

- ・道路整備は、産業振興などをおし地域活性化のため依然としてその必要性は高いと考えます。よって、地域において必要性の高い幹線道路の早急な整備に向けた取組みを優先していただきたいと考えます。
- ・道路網計画の点検が必要であると考えます。市町村や都道府県を越えた広域的な視点から、その計画を点検し費用対効果の検討を行うことにより、効率的な整備を実施すべきと考えます。
- ・既に整備されている道路の長寿命化を図るべきと考えます。新たな道路整備を行う場合には、当然に既存の道路も考慮し計画することとなるが、既存の道路がその機能を十分に発揮されなければ新たな道路もその機能を発揮できなくなります。
- ・全国的に景観に対する意識が高まっていることから、新たな道路整備を行うにあたっては地域の景観にあったものを整備すべきと考えます。
- ・高齢化社会が急激に進むこと、市民のバリアフリー化に対する要望の高まりから、今後生活道路の安全性、快適性の向上をさらに図る必要性が高まると考えます。よって、生活道路を整備する主体である市町村に対する国庫補助金、交付金等の見直しが必要と考えます。
- ・国内においても国道等を中心に電線地中化が徐々に進められているが、未だ十分なものとはいえず、道路の沿線に多数の電柱が立ち並んでいます。仮にこの電柱がなくなった場合、災害に強い町の形成を図ることができるばかりでなく、景観も飛躍的に向上します。よって、さらに電線地中化を推進すべきと考えます。

○現状	○課題
・従来当町は大手企業からの税収により、比較的安定した財政状況にあったが、当該企業が数年後に移転することとなった。	・大幅な税収減が見込まれる。新たな大手企業の進出が今のところ具体的でないことからこれまでのような道路整備事業に対する財源が確保できるかが大きな問題である。
・当町は、平坦部と丘陵部に分かれ、平坦部は住宅地が多く人口が集中し、丘陵部は全体が市街化調整区域で森林や農地が多くを占め人口も少ない。このような状況から両地区における道路などのインフラ整備の格差が大きく、また両地区を結ぶ道路も不十分である。	・財政的な問題で早急な対応が不可能である。
・当町の都市計画道路は４本のうち既に３本がほぼ完成し、幹線道路の整備はかなり進んではいるが、幹線道路の一部は慢性的な渋滞が生じている。	・残る１本の都市計画道路はＪＲ御殿場線と交差する箇所があり、また高規格道路であることから町では財政的、技術的な問題から整備を行うことが困難であるため、その整備を県に要望しているが未だ事業計画には至っていない。
・当町には南北にＪＲ御殿場線が縦断する形で位置している。御殿場線と交差する町道は踏み切り又はボックスカルバートで交差しているが、いずれも幅員が狭い。	・交差箇所のほとんどが車の相互通行が不可能な状況にあり地域間の交通に支障を来している。
・近年ゲリラ的な豪雨などによる道路の冠水が増加している。	・局地的な改良ではなく、広域的な水路網の検討を行わなければ根本的な解決にはない。またその実施には多額の経費を要するため早急な対応が困難である。
・特に市街地内における歩道の整備要望が多い。	・要望箇所は住宅が建ち並んでいる箇所が多く、その実施は非常に困難な状況にある。

当町は平坦部と丘陵部に分かれており、平坦部では良好な田園環境と調和した市街地として、丘陵部は自然環境に恵まれた地区として、その特長を活かした都市構造を維持する。

平坦部地域の住宅市街地ゾーンは、現在の低層低密な住環境を保持しながら、住みよい環境づくりを図る。役場周辺では新たな都市機能を導入し、本町の新たな顔となる中心市街地整備を推進するとともに、金子吉原地区については新市街地ゾーンとして新たな市街地の形成を図る。併せて、各都市計画道路沿道の沿道サービス施設の立地や、都市計画道路松田大井線沿道の産業ゾーンに新たな産業誘致の促進を図る。

特に、JR 御殿場線と国道 255 号は、町内の南北を結び付けるだけでなく、本町と特につながりの強い「小田原市」「松田町」に連絡する重要な軸となっており、この交通施設を主要な都市軸と位置付け、生活機能や商業業務機能を駅周辺及び沿道に配置する。

また、都市計画道路松田大井線と都市計画道路金子開成和田河原線の整備により、新たな都市軸が形成されることから、この周辺地をはじめとした幹線道路の沿道は、都市的土地利用を図る沿道施設ゾーンとして位置付け、沿道の街並み景観に配慮した都市づくりの展開を図る。

丘陵部地域は、今後平坦部地域との人口格差が広がると予測されるため、集落の環境整備により人口の維持を図りながら、緑豊かな都市づくりを目指す。

特に、集落を取り囲む面的に広がる樹林地は緑地ゾーンとして位置付けるとともに、集落ゾーン及び農地ゾーンについては「いこいの里・相和」構想の推進により、集落環境及び営農環境の向上を目指す。

将来都市像の「あしがらの豊かな自然環境と調和した田園都市」を実現するにあたっては、平坦部と丘陵部の地域を結ぶ連絡道路や丘陵部の各集落を結ぶ集落間道路など、地域の拠点の連絡性を高める道路網の形成を図り、新たな都市の魅力の向上を目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

神奈川県大井町

○重要事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	・平坦部地域と丘陵部地域を結ぶ連絡道路、丘陵部地域における集落間道路の整備	・町内における格差の是正、丘陵部地域における活性化を図ることができる。	
都市交通の快適性 利便性の向上	・JR 御殿場線との交差箇所の改良 ・都市計画道路金子開成和田河原線の整備	・町内の地域間交通の利便性の向上を図ることができる。 ・町内の主要幹線の渋滞の解消、広域的な活性化及び防災体制の向上を図ることができる。	
水害等の災害に強い国土づくり	・広域的な水路網の検討 ・平坦部地域と丘陵部地域を結ぶ連絡道路、丘陵部地域における集落間道路の整備	・都市を中心に頻発している雨水による道路冠水等を防止するため、道路自体の整備をすすめるとともに水路等の災害対策を行うことにより道路の機能が十分に発揮される。 ・災害時の丘陵部地域における救援及び避難路が確保できる。	
少子・高齢化社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・都市計画道路金子開成和田河原線の整備 ・歩行者優先道路の整備	・幹線道路と歩行者優先道路の整備により、生活道路への車両の入り込みを減少させるとともに、高齢化社会に向け安心して住めるまちづくりの基礎が整備できる。	
良好な景観の形成	・沿道における景観の維持・向上（広告景観形成地区の指定等）	・当町は富士や箱根連山等の景観が優れており、これを維持する必要性、価値がある。また、幹線道路の沿線は町の顔とも言えることから、景観維持・向上は重要である。	